

第1回秋田市小・中学校適正配置推進委員会要旨

日 時：令和3年12月23日（木曜日）
午後4時00分～午後5時03分
場 所：イヤタカ 4階
ジョージアンホールウエスト

1 開 会

2 越後谷教育次長あいさつ

3 委員長、副委員長選出

委員長を佐藤修司委員（秋田大学教育文化学部長）、副委員長を小松田儀貞委員（秋田県立大学准教授）とした。

4 委員長あいさつ

5 議 題

(1) 学校適正配置に関する地域協議の進捗状況等について

(ア 地域協議の開催状況等について説明)

○委員

- ・現在、休止している検討委員会の再開時期について、例えば、中央地域の八橋小と寺内小が令和7年度、河辺地域の河辺小と戸島小が令和5年度に決定した経緯はどうか。

○事務局

- ・八橋小と寺内小については、1歳から12歳までの児童数の将来推計などを基に協議した結果、令和12年度を統合の目途としたものである。
- ・そこで、統合検討委員会は一旦休止するが、再開時期については、統合までの準備に5年ほどかかることを踏まえ、令和7年度に決定した。
- ・また、河辺地域では、地域協議の第1段階であるブロック協議会において、教育委員会から小学校は3校の組合せ、中学校は2校の組合せでの統合案を示したが、地域から協議継続の理解が得られなかったことから、3年後の令和5年度に再開することとなったものである。
- ・こうした中、河辺小と戸島小は、2校の組合せで第2段階の統合検討委員会に進み、令和8年度を目途に統合することとなったが、統合後の校舎に関する協議が進まなかったことから、ブロック協議会の再開に合わせて、令和5年度に再開することとしたものである。

○委員長

- ・協議再開の時期は、機械的に事務局で示したのではなく、協議の中で決まったとのことであるが、5年後、10年後という区切りのよいところに収まっ

ている。

○委員

- ・協議再開が5年後、10年後となると、委員も入れ替わるため、協議内容をきちんと引き継ぐことが大切であり、教育委員会からも情報提供などを手厚く行っていただきたい。

○事務局

- ・PTA会長や町内会長が新しく入れ替わることも想定し、会長が交代する際には、これまでの協議内容について引き継ぎしていただくことをお願いしている。
- ・また、各委員の所属する団体には、毎年、児童生徒数のほか、1歳児のデータを基にした6年後から12年後までの推計値などについて、資料提供していきたいと考えている。
- ・さらに、これまでと同様に、協議会だよりの町内会への回覧を活用し、地域住民への周知を継続する予定である。

○委員長

- ・東部地域の太平小と下北手小は、令和7年度に広面小と同時に統合となるが、太平中が令和5年、下北手中が令和6年と1年ずれて城東中と統合することに決まった経緯はどうか。

○事務局

- ・下北手中PTAでは、統合の当事者となる小学校PTAから意見集約を行ったところ、令和5年度では早すぎるという意見が多かったことから、令和6年度に統合することが決定したものである。
- ・太平中は、PTAや地域から、できるだけ早く統合してほしいという要望があり、令和5年度で決定したものである。
- ・一方、小学校については、広面小、太平小、下北手小の検討委員会において、3校で足並みをそろえて統合したいという意見があり、令和7年度に統合することに決定したものである。

○委員長

- ・それぞれ個々の思いがあるにしても、強制的ではなく、皆さんが納得する形で決定していることがよいと思う。

(イ 地域協議における要望および意見への対応状況について説明)

○委員長

- ・資料3の地域協議における要望および意見への対応については、ホームページなどで開示しているのか。

○事務局

- ・ホームページでは公開していないが、地域協議で回答した対応等は、協議会だより等で広く周知している。

○委員

- ・統合に伴い、地域協働の象徴である学校がなくなることは、地域にとって非常に残念なことではあるが、今後の廃校舎の活用には大きな意味がある

と思う。

- ・具体的な例として、コミセン化の話があったが、他地区での事例や議論されていることはあるのか。

○事務局

- ・上新城地区と下浜地区から廃校舎をコミセンとして利用したいという要望があったが、他地域では、まだ検討中のところが多い。
- ・廃校の利活用については、まずは、地域から優先的に要望を伺い、もし要望がなければ、市役所の庁内で活用を検討し、それでもなければ民間に賃貸もしくは売却という順番で考えている。

○委員

- ・学校をなくしたくないという地域感情に配慮しつつ、廃校舎を別の形で使えるという先のイメージがあると、統廃合を後ろ向きに捉えないで協議を進められるのではないかと思う。

○事務局

- ・地域から学校がなくなると寂しいという声も聞いているが、廃校舎に手をつけずにいると、建物自体が老朽化し、誰も寄り付かなくなることも想定される。
- ・そこで、廃校舎の利活用については、地域の方々の思いや声にも配慮しながら検討していきたいと考えている。

○委員長

- ・廃校舎の維持費と取り壊す経費の比較もあるが、基本的には、地域から納得が得られ、地域が発展できる道筋ができればよいと思う。
- ・統合後の学区に関する対応について、通学距離が大きく変化する地域については、どちらか近い学校を選択できるということなのか。

○事務局

- ・統合に伴い学区が広域になると、どうしても学区の端側は統合先の学校が遠くなることがあるが、その場合には、近い学校を選択できるような検討が必要と考えている。
- ・また、統合に伴い、通学距離や時間が長くなる場合には、スクールバスを運行するという基本方針に基づき、今後も進めていく予定である。

○委員長

- ・学区を選択できることになると、ある程度人数が多く切磋琢磨できる学校に行ってしまうたり、校舎が新しい学校に行ってしまうたりと偏りが出ることが想定される。
- ・このような理由で学校を選択することがないよう、どのように防ぐのか考えていただきたい。

○委員

- ・各地域の課題や要望は様々あるが、適正配置の取組は、少しずつ先が見えて来ていると思う。
- ・今後、さらに議論が具体的になってくると、地域によっては、スクールバスでスムーズに行く場合もあれば、学区が遠すぎて学区の見直しが必要に

なる場合もあるのではないかと感じている。

- ・例えば、旭南小と旭北小では、統合後に旭北小の校舎を使うとなれば、旭南地区の一部では、大住小が近くなる児童もいる。
- ・また、築山小と中通小でも、統合後に築山小の校舎を使うとなれば、東小に行った方が近いという状況がでてくる。
- ・いずれ学区の見直しは地域協議で決めていくのか、教育委員会である程度考えていくのか、すごく微妙であるが、地域とよく話し合っただけ進めていければよいと思う。

○事務局

- ・2校、3校の統合を検討する際の資料として、学区を図面にして、校舎の位置から1kmの円を描くなど、統合後の学区の範囲をイメージできるようにしている。
- ・例えば、旭南小と旭北小の組合せにおいて、使用する校舎が旭北小になった場合、茨島、卸町地区の児童は旭北小に行くのか、それとも、より近い大住小に行くのか、地域や町内会の理解を得ながら、選択できるようにしたいと考えている。
- ・また、東小に近い中通小学区でも、明田地下道をくぐらないで東小に行った方がよいということで、地域の理解が得られれば、そのように進めたい。
- ・現在、土崎小と土崎南小の統合検討委員会では、学校間の距離は近いが、土崎のお祭りの関係や進学先の中学校の問題があり、協議がなかなか進まないが、小学校と中学校のつながりも考慮しながら、協議を継続していきたい。

○委員長

- ・学区の見直しは、町内会のまとまりを崩すわけにもいかないため、難しい課題であると思う。

○委員

- ・私は、旭南小から山王中へ進学したが、妹は、山王中が近いにもかかわらず、進学先が秋田南中に変わり、子どもなりに不条理な思いがずっとあった。
- ・どこでどのように決めたのかという過程について、当事者が知らないまま、検討委員会などの地域協議で決めたという伝わり方がされると、ずっと後を引くことになる。
- ・中学生くらいになると、自分でも状況がわかるようになるので、子どもたちにも伝わるような配慮をしていかないといけないと思う。
- ・一緒に過ごしてきた友達と突然分かれて進学することになることは、成長期の子どもたちにもよい影響を与えないので、地域、保護者、子どもが納得できるよう、本当に慎重に学区の線引きをしてほしいと願っている。

○事務局

- ・特に旭南小の場合は、山王中と秋田南中に分かれて進学することが地域協議の中でも課題になっており、今後、解決しなければいけないと思っている。

- ・飯島小の例では、秋田北中と飯島中に分かれて進学している問題について、住んでいる場所によっては、それが当たり前と考えている地域の方もいる。
- ・一方、小学校の友達と一緒に進学したいということで、同じ中学校を選択する場合もあるという話も聞いている。
- ・学区などの問題については、地域協議を重ね、線引きをしっかりと決めるのがよいのか、統合の過渡期においては、ある程度どちらかを選択できるようにするのがよいのか、様々な検討をしながら進めていきたいと考えている。
- ・その協議内容や過程については、協議会だより等で家庭や地域に周知しているところであり、教育委員会が急に決めることはない。

○委員長

- ・学区の線引きについては、子どもたちへの影響も考えながら検討していただきたい。

(2) その他

(秋田市小・中学校適正配置推進委員会の検討経緯について説明)

○事務局

- ・本推進委員会の当初の目的である、将来の学校適正配置については、統合の組合せなど、一定の方向性が決まり、現在は、地域ごとに統合に向けた具体的かつ事務的な準備に移っている。
- ・そこで本推進委員会は、今年度限りで一区切りしたいと思っているが、委員各位には、これまで長きにわたり、将来の望ましい学校のあり方について、様々なご提言をいただいたことに感謝する。

○委員長

- ・ただいまの説明のとおり、今年度限りでこの推進委員会の役割に一区切りつけることになるが、各委員から感想や今後に望むことがあれば願います。

○委員

- ・平成29年度に各市民サービスセンターで開催した説明会では、統合の基本的な考え方について、本当に地域の理解が得られるのか不安な気持ちがあった。
- ・しかし、これまでの取組状況や資料を見ると、学校適正配置推進室をはじめ、教育委員会全体の物事をまとめる力はすごいと感じている。
- ・まだまだ細かく詰める課題はたくさんあると思うが、きつとうまくいくものと信じている。

○委員

- ・私が、若い頃に勤めていた小学校では、自分の学年だけが1学級で、他の学年は2学級の規模であった。
- ・1学級で6年間過ごすことはよい面もあるが、意地悪されても、いじめがあっても、ストレスがあっても、いつも顔を合わせていなければならないというマイナス面もある。

- ・ 2学級あると2年に1回クラス替えがあり、この子とこの子を離そうかといふことができるため、統廃合が進んでくると、ある程度、1学年1学級のマイナス面が解消されていくのではないかと考えている。
- ・ また、私の自宅近くの秋田駅周辺では、高齢者の家が空き地となり、そこに新しい家が建っており、現在は、子どもたちが一緒に歩いて通学するなど、これまでになく光景を見るようになった。
- ・ 協議を一旦休止した築山小と中通小の周辺でも、確かに新しい家が建っており、もしかしたら、子どもたちが少し増えてくるのではないかと、ゆっくりと見守っているところである。

○委員

- ・ 本当に丁寧に時間をかけて議論を進めてこられ、ここまで来れたのではないかと感じている。
- ・ 昨年度は、新型コロナウイルス感染症で大変な時期にもかかわらず、49回も地域協議を開催し、関係者のご苦勞がしのばれるが、その状況の中でも議論を進めたことが、今につながっていると思う。
- ・ 検討委員会の協議を一旦休止して、何年か後に再開することは、停滞感がなくこれまでの進め方と矛盾しない、よいアイデアであると感じている。

○委員

- ・ 委員を引き受けるに当たり、10年後、20年後の人口推移が数字として表れている中、子どもの数が減少するという現実に押しつぶされそうになった。
- ・ この委員を引き受けて大丈夫かという気持ちがずっと残っていたが、学区の問題など、これまで私自身が感じていたこともあったので、自分に来るべくして来た委員だったという思いで務めた6年間であり、大変勉強になった。

○委員

- ・ 学校の適正配置については、当初から、時間をかけて話し合うという方針を貫き、とても丁寧に協議を進めてきたと改めて感じている。
- ・ 地域によっては、学校は人が集まる唯一の場所であり、それがなくなるのは大変なことであると考えているが、地域の方々にも協力をいただき、よくここまでまとまったと思う。
- ・ 私の専門は、教育とはあまり関係ない分野であるが、教育の問題はこれで終わりではなく、今後も様々な課題がでると思うので、できることがあれば協力していきたい。

○委員長

- ・ 学校統廃合というと、地域が徐々に衰退する中で、負け戦のような暗い感じが漂い、負のスパイラルに入ってしまうがちになるが、未来に向けて希望を語れるような、未来に夢をもてるような議論を今後も行っていきたい。
- ・ 校舎を新設しないとしても、新しい人間関係づくり、新しい地域社会づくり、新しい学びの在り方を創り出せるような未来展望が描けるようになれば

ば、うつむかずに前を向いて、ゆくゆくは、地域社会の存続につながって
いくことを期待している。

※学校適正配置推進委員会を今年度限りで廃止することについて、全委員から
了承を得た。

6 閉会

以上